

県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻179号 令和3年(2021)2月22日 Vol.51 No.3



公式ウェブ情報番組「キョドチャンネル」放映スタート!!

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、観覧者数が減少している全国各地の博物館や美術館では、それぞれ新しい試みを行っています。当館でも新しい試みとして、公式ウェブ情報番組「キョドチャンネル」のインターネット配信をスタートしました。

これは、県内外の人々が在宅のままでもYouTubeを介して、当館および当館所蔵資料の魅力や各種事業の情報等を楽しみながら知ることができる映像番組です。

スタート時には様々な模索がありました。例えば、一般に映像番組制作を専門業者へ委託すればかなりの予算が必要となります。よって当館は、低予算で済む自主制作を選びました。それは当館にとって全く新しい試みでしたが、すでに有利な環境があったのです。

例えばハード面では、すでに調査研究用の基本的な映像機器類が揃っていました。魅力的なコンテンツについては、当館が、自然、考古、歴史、先人、美術、民俗の各分野をカバーする総合博物館として多彩な資料群を収蔵していること、そし

て、それらを解説できる各分野の専門学芸員が揃っていたことです。さらにその職員のなかには、過去の様々な業務を通じて、映像番組制作のスキルと経験知を習得している者がいました。加えて、多くの人々の前でわかりやすく講座等を展開していくプレゼンテーション・スキルを練磨してきた学校教員出身の学芸員も複数いるのです。

番組制作は、まず基本的骨格となる番組の進行案を作成し、館内で検討した後で撮影に入ります。出演する学芸員たちは、プロの俳優ではないため、ときにカメラの前で失敗し、予定外の表現をしてしまうこともあります。しかし、あえてそれを型にはめて矯正してしまわずに、それぞれの専門性と個性を生き生きと表現してもらおうと、映像全体にも生き生きとした活力が備わってくるようです。

いつでもどこでもお手元のスマホやパソコンで楽しめる当館公式ウェブ情報番組「キョドチャンネル」(青森県立郷土館デジタルミュージアム <https://www.kyodokan.com/>)。ぜひご覧くださいね!!

(学芸課副課長 小山隆秀)

冬休みづくりまわし大会

令和3年1月10日(日)に恒例の「冬休みづくりまわし大会」を開催しました。休館中で当館は使用できないため、今回は県総合社会教育センター(以後県社セ)を会場としました。また、会場となる県社セの指定管理者である「豊かな学びを育む青い森グループ」と初の共催とし、づくりまわし大会と一緒に県社セのイベント、「消しゴムはんこ作り+α」も楽しんでいただけるように企画しました。

当日は、豪雪のため多くの参加者の到着が遅れましたが、県社セのスタッフと連携しながら臨機応変に対応し、若干開始時刻は遅れたものの無事始めることができました。

今年は、づくりまわし大会に初めて参加する子どもたちが多く、子どもたちをはじめ来場者は「づくり」に興味津々。づくりの語源や回し方のコツなどのお話にも熱心に耳を傾けていました。

また、消しゴムはんこ作りが同じ時間帯に並行して行われたので、記録の集計などの待ち時間を有効に活用でき、参加者の皆さんには時間いっぱい楽しんでいただけるイベントとなりました。

休館中のイベントは、今後も必然的に外部の会場での開催となりますが、今回の共催は、他施設と連携しながらより充実した教育普及事業を展開する良い前例となりました。

(主任研究主査 福士道太)



ひもの巻き方から丁寧に指導



づくりが回っている時間を計測

遠隔授業

令和3年1月25日(月)、当館歴史展示室と青森県立青森第一養護学校、愛知県立岡崎特別支援学校を結んで、ウェブ会議システム(Zoom)による遠隔授業を行いました。今回のテーマは「十三湊の繁栄」(中学・歴史)で、事前に両校から寄せられていた質問に、学芸員が回答する形で進めました。

室町時代に中国から輸入された十三湊遺跡出土の茶碗や銅銭のほか、江戸時代に使われたアイヌの衣服や沿海州経由で大陸からもたらされた蝦夷錦、海底から引き揚げられた北前船の積荷だった徳利など、様々な展示品が生徒の興味を引いたようで、活発な発言が飛び交う有意義な50分となりました。



十三湊遺跡出土品の紹介

また、安藤氏が交易品としていた矢羽根に用いる鳥の羽については、自然分野で収蔵しているタカの剥製を見せて説明するなど、総合博物館ならではの授業ができたと思います。

(主任学芸主査 岡本洋)



アイヌの衣服「アトウシ」を紹介



自然分野の資料も利用

伝染病や疫病に関するコーナー展示を開催

今年度、世界的に流行し、未だ収束していない新型コロナウイルス感染症ですが、このような伝染病の流行は人類の歴史の中で何度も発生しており、そのたびに先人たちは甚大な被害に悩まされてきました。現代のような医療技術が発達していなかった時代の人々は、伝染病や疫病などの災厄から逃れようと、宗教や様々な祈願、呪術なども用いました。青森県域でその一部は、人形送りや百万遍、ネブタなどの年中行事として現代まで伝承されています。

当館では、これらの儀礼や習俗などを紹介するコーナー展示「祈り 疫病退散!!～人形送り・百万遍・ネブタ～」を、令和2年7月20日(月)～8月23日(日)に常設展示室3階特設コーナーで開催しました。この展示を通して伝染病や疫病などから先人がどのように生き残ったか学び、新型コロナウイルス感染症と闘う勇気を持っていただきたいという思いを込めました。

このように博物館は、歴史や文化などを広く伝える役割を担っています。これからも機会あるごとに、世の中の動きに合わせた様々な企画を行っていきたいと思います。

(学芸課長 島口天・学芸課副課長 小山隆秀)



コーナー展示「祈り 疫病退散!!～人形送り・百万遍・ネブタ～」

主な出来事			
2020年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、臨時休館(4/11～5/20) ●企画展『収蔵資料でめぐる ふるさと再発見の旅』中止 ●GWイベント中止 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●秋の自然観察会を実施(10/4) ●あおり街かど探偵団を実施(10/10) ●耐震診断の目標値を下回る部分があることが判明。安全確保のために当面、臨時休館(10/20～) ●東奥日報新町ビルで『第88回東奥児童美術展』開催(10/30～11/8)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な感染症対策をしたうえで開館(5/21～) 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●三内丸山遺跡センターで『金魚美抄2020～金魚を描くアーティストたち～』開催(11/28～1/11) ●土曜セミナーの会場を県立図書館に変更
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●公式ウェブ情報番組『キョドチャンネル』配信スタート 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度1回目の遠隔授業を実施(12/14) ●元気発信プロジェクト 郷土館ナイトミュージアムを実施(12/17～3月下旬)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●コーナー展示『祈り 疫病退散!!～人形送り・百万遍・ネブタ～』開催(7/20～8/23) ●サーモカメラ導入 	2021年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント『冬休みづくりまわし大会』開催(1/10) ●常盤ふるさと資料館あすかで『連携展 今純三と青森県の版画家たち展』開催(1/15～2/14) ●県民福祉プラザで『連携展 青森市の風景』開催(1/19～3/14) ●三内丸山遺跡センターで『青森県立郷土館サテライト考古展示室with 奈良国立博物館収蔵資料』開催(1/23～2/21) ●2回目の遠隔授業を実施(1/25)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●授業に役立つ博物館研修を実施(8/6) ●博物館実習を実施(8/24～8/28) 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ●東奥日報新町ビルで『第10回東奥児童書道展』開催(2/18～2/28)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●土曜セミナースタート(9/5～) ●ミニ企画展示『鷹山宇一と世界のチョウ』開催(9/4～10/18) ●企画展 鎌田清衛写真展『青森の風土と人』開催(9/14～10/18) 		

元気発信プロジェクト

郷土館ナイトミュージアム

冬のねぶた

新型コロナウイルス感染症の流行に加え、冬期の積雪と日没の早まりによって気持ちが沈みがちな青森の人々に、ねぶたに灯る明かりで夏まつりの熱気を呼び起こし、暖かさとお届けします。

期間：12月17日～3月下旬 時間：夕方～深夜

展示資料 子どもねぶた(昭和初期のねぶた) 約15台






第10回 東奥児童書道展



県内の保育園児、幼稚園児、小中学生が書いた全入賞作品を展示します。

開催期間：令和3年2月18日(木)～2月28日(日)
時間：10:00～17:00

場所：東奥日報新町ビル 3階 New'sホール
(青森市新町2丁目2-11)

料金：無料

お問い合わせ：東奥日報社事業部
〒030-0801 青森市新町2丁目2-11
TEL 017-718-1135(平日9:00～17:00)

※写真は去年の展示会の様子です。



郷土館連携展

青森市の風景

～昭和時代の青森市にタイムスリップ～

青森市立郷土館
青森市中央三丁目20-30
017-777-9191(プラザ管理室)

青森市の風景

～昭和時代の青森市にタイムスリップ～

会期：1月19日(火)～3月14日(日)
9:00～17:00
※休館日：毎月第1・3月曜日

会場：県民福祉プラザ1Fエントランス
青森市中央三丁目20-30
017-777-9191(プラザ管理室)

見学料：無料

内容：青森市の懐かしい風景写真を展示
※開催期間中に風景写真の入替を行います
主催：青森県立郷土館 共催：県民福祉プラザ

お問い合わせ：県民福祉プラザ管理室 017-777-9191

郷土館連携展『青森市の風景』県民福祉プラザで開催！
当館が所蔵する青森市の懐かしい昭和戦後の風景写真を通じて、郷土の魅力と歴史を感じていただきたいと思います。

日時：令和3年1月19日(火)～3月14日(日)

休館日：2月15日(月)

時間：9:00～17:00

場所：県民福祉プラザ1階エントランス
青森市中央3丁目20-30
017-777-9191(プラザ管理室)

観覧料：無料

担当者に見どころを聞いてみた！

昭和30年代のねぶた祭りの賑わっている様子や、いわし漁も行われ青森魚市場もあった青森港。駅には「担ぎ屋(かつぎや)」と呼ばれる行商人がたくさんいて、津軽地方の米を北海道に運び、海産物を持ち帰りました。蒸気機関車や青函連絡船も走っていた時代。駅前にはりんご市場が立ち並んでいました。懐かしい風景がよみがえってきます。写真を見て昭和の時代にタイムスリップしてみましよう。

(主任学芸主査 中村理香)



【青森港安方岸壁からみた青函連絡船】



【雪の青森市街地】



【雪のホームの担ぎ屋さん】

